

# 花もあらしも 踏み越えて

～仕事を生きがいに～



ユニットで料理の腕をふるう竹下さん



## ～あなたにとっての生きがいはなんですか？～

そう聞かれて皆さんは何を思いますか？

今回は若いときから家族のために働き、人の役に立つことを生きがいと感じ、毎日を過ごしている利用者の方をご紹介します。

今回ご紹介するのは愛全園のぼたんユニットで生活している竹下豊志さんです。竹下さんは大正3年生まれの101歳で、男性利用者の中では最高齢になります。

幼いころに両親を亡くし、学校卒業後は14歳で大手電力会社に就職しました。

ここは小学校のときから憧っていた職場でした。働きながら夜間学校にも通い、妹や弟を育てていました。

昭和13年、23歳のときに入隊しフイリピンへ、27歳のときに中国の戦地へ行きました。このときが人生で一番の不幸だと振り返っています。

また文字を書くのが好きで、新聞に投稿したり、戦争や仕事、家族のことなどを書きとめた自伝書を7冊も書き上げたりしてきました。

**生き立ち**

## 優しくも厳しい人

仕事熱心で、55歳の定年まで大手電力会社に勤務し、その後70歳まで関連会社で理事などをしていました。会社を大きくするために、定年を機に運転免許を取り、営業に回るなどしました。

当時のこととを本人に聞いてみると「文字を書いたり、いろんな所に出向いたりして、いや一大変だった」と笑っていました。

退職後も「自分の仕事」として責任をもつて家の畠仕事や孫・ひ孫の世話をしています。

家族をとても大事にしており、ひ孫さんの下校を家の前でずっと待っていたり、家族の写真をアルバムに整理したりしていました。

その一方で「車の運転中は集中できないから話をしてはダメだ」と言つて怒ったというエピソードもあり、優しくも厳しい人であったと娘さん



仕事の象徴である背広はいつもお部屋に飾っています

は言います。

一家の大黒柱として、自分の役割をもつことに生きがいを感じていました。

98歳になり、足腰も弱つたため、愛全園に入居しました。

職員に話すこともあり、昔のことを思い出しているようです。

昔とは違った形ではありますが、人の役に立つことに喜びを感じてユニットで生活を続けています。

職員から頼りにされ、ユニットの大黒柱として「自分の仕事をもつことに生きがいを感じています。

人は、日常生活で生きがいをあまり意識することはあります。しかしに頼りにされたり、感謝されたりすることが、喜びや自分の力になることがあります。

また、竹下さんはふだんから職員に対して感謝の気持ちを伝えてくれることがよくあります。私も感謝の気持ちを、言葉に表して相手に伝えることを意識するようになります。

お互いが良い影響を与えあうということ、私が竹下さんと出会つて得たものです。

## その人の生きがいを知って

竹下豊志様は平成28年2月29日に永眠されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

## 家族からの手紙

### おじいちゃんへ

昔から責任感が強く、仕事人間な人でした。仕事が忙しく、幼いころからあまり遊んでもらった記憶はありません。

その分、家族のことは、とても大切に思ってくれていました。

現在、ここ(愛全園)で、生活をして賑やかに暮らせているので、よかったです。

今まで頑張った分、みなさんに良くしてもらっているのはおじいちゃんの人徳だと思うので、これからもおじいちゃんらしく、最後まで過ごしてもらえたたらと思っています。

娘より



2014.9.1 福井市長との記念の一枚

竹下豊志様は平成28年2月29日に永眠されました。ご冥福をお祈り申し上げます。